

令和2年度第2回松本市地域包括ケア協議会

次 第

日時：令和3年3月25日（木）

午後7時～

場所：松本市役所大会議室

1 開会

2 あいさつ

3 会議事項

- (1) 在宅医療・介護連携委員会報告 …………… (資料1)
- (2) 生活支援体制整備委員会報告 …………… (資料2)
- (3) 認知症施策推進協議会報告 …………… (資料3)
- (4) 地域ケア会議のあり方について …………… (資料4)

4 その他

5 閉会

令和2年度 松本市地域包括ケア協議会 委員等名簿

R3.3.1現在

No.	委員名	構成団体名	委員会	
			医介	生活
1	唐沢 保之	松本市医師会	○	
2	平林 正明	松本市歯科医師会	○	
3	杉澤 哲	松本薬剤師会	○	
4	近藤 才子	長野県看護協会	○	
5	小林 勝	長野県理学療法士会	○	
6	藤原 亨	長野県作業療法士会	○	
7	齊藤 京子	松本市介護保険事業者連絡協議会 介護支援専門部会	○	○
8	宮武 千奈美	松本市介護保険事業者連絡協議会 訪問看護部会	○	
9	杉本 裕美子	松本市介護保険事業者連絡協議会 訪問介護部会	○	
10	田村 浩志	長野県松本保健福祉事務所	○	
11	清澤 秀彦	長野県社会福祉士会		○
12	矢久保 学	松本地域シルバー人材センター		○
13	臼井 真智子	JA松本ハイランド		○
14	代田 登	高齢者生活協同組合		○
15	中澤 孝	松本市町会連合会		○
16	草深 邦子	松本市民生委員・児童委員協議会		○
17	大門 千恵美	松本市健康づくり推進員連合会		○
18	小仁熊 恭夫	松本市高齢者クラブ連合会		○
19	鳥羽 良武	公募委員		○
20	坂井田 金一	公募委員		○
21	池上 俊彦	信州大学医学部附属病院・保健学科長	○	
22	宮田 和信	慈泉会相澤東病院 院長	○	
23	尻無浜 博幸	松本大学総合経営学部 教授		○
24	杉山 敦	松本市医師会会長 長野県医師会在宅医療推進委員会委員長	○	
	事務局	松本市健康福祉部(高齢福祉課、福祉計画課)		
		松本市地域づくり部(地域づくり課)		
		松本市社会福祉協議会		
		松本市医師会		

在宅医療・介護連携委員会報告

1 委員会報告

(1) 第1回（R 2. 1 1. 9）

- ア 多職種連携研修会について
- イ 入退院連携ルール等運用状況調査の実施について
- ウ ACP（人生会議）とリビングウィルの周知について
- エ 地域包括支援センターエリア（日常生活圏域）における「在宅医療・介護連携の推進」の取組み状況について
- オ 新型コロナウイルス感染症対策介護事業所ネットワークについて
- カ 入所施設における事前指示書について
- キ 在宅医療・介護の連携推進に向けた方向性について
- ク 今後本市が目指す姿と目標、具体策等について

(2) 第2回（R 3. 3. 8）

- ア 令和2年度事業報告について
- イ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について
- ウ 令和3年度事業計画（案）について
- エ その他
 - （ア）新型コロナウイルス予防接種（予定）について
 - （イ）サービス事業所職員等研修会について

2 事業報告

(1) 多職種連携研修会について

地域包括支援センター単位の開催の他、今年度はコロナ禍のため集合方式の研修会ではなく、事前に講演を録画し、一定期間配信する方法で実施

- ア 講演 「新型コロナウイルス感染症 現場で生かせる知識」
- イ 講師 松本市立病院 循環器内科長・感染対策室長 澤木 章二 氏
感染管理認定看護師 池田美智子 氏
- ウ 視聴回数 169回（松本市公式YouTube）
- エ その他 要望等に基づき、現在再配信中（令和3年2月から8月末まで）

(2) 松本市介護と医療連携支援室について

- ア 地域ケア会議等への出席及び出席者調整
- イ 連携先の開拓、訪問、連携体制の整備
- ウ 医療・介護分野に関する各種相談対応
- エ リビングウィルを考える会等の開催

(3) 松本市版リビングウィル（事前指示書）と人生会議の周知啓発について

- ア 松本市版リビングウィル（事前指示書） Ver. 1.02 で軽微な変更を実施
- イ 周知啓発状況（令和2年11月分）

- (ア) 地域包括支援センターだよりの配布 6, 699枚
- (イ) リビングウィル様式の配布 2, 463枚

(4) 情報共有ツールの周知と運用状況調査の実施

- ア 入退院連携ルール運用状況調査結果 運用率90.0% (前年比+8.0%)
- イ 多職種連携シート活用状況結果 活用率85.0% (今回初回調査)

(5) 第8期介護保険事業計画について

協議会、委員会、書面等で協議した内容を反映し、計画へ掲載

(6) 自立支援型個別ケア会議について

地域ケア会議の一環として、医療専門職が参加し自立支援・重度化防止の視点で事例検討を行うもの。令和元年度試行、今年度から定例開催(月1回、2事例)

ア 会議の目的

高齢者の自立支援・重度化防止、介護予防マネジメント支援、参加者のスキルアップとネットワーク構築、地域課題の把握

イ 出席者

地域包括支援センター、助言者(薬剤師、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、管理栄養士、医療コーディネーター、生活支援コーディネーター)、高齢福祉課、傍聴者(関係機関等の代表者、地域包括支援センター、他課職員)

ウ 課題

助言者のアドバイスを関係者で共有し継続支援に反映することや、関係機関等への更なる周知

エ 今後の方向性

次年度、関係機関等への周知、協力依頼を行うとともに、事例提出側に介護保険サービス事業所職員、傍聴者へ居宅介護支援事業所を加えて開催する。

(7) 総合事業等サービス事業所職員等研修会について

例年、自立支援・重度化防止等をテーマに開催しているが、今年度はリモートで新型コロナウイルス感染症対応について実施

3 令和3年度事業計画(案)

(1) 委員会の開催 2~3回

(2) 在宅医療・介護連携推進事業

ア 多職種連携研修会の開催

一堂に会しての研修の他、リモート、小規模単位による実施など、状況に応じた開催を検討する。

(ア) 地域包括支援センターごとの多職種連携研修会等の実施

(イ) 全市レベルの多職種連携研修会の開催

イ 在宅医療・介護連携推進の取組みについての協議

ウ 松本市版リビングウィル(事前指示書)・人生会議の周知啓発の実施

エ 関係機関等との連携及び広域的な取組みの実施

(3) 自立支援型個別ケア会議の開催

生活支援体制整備委員会報告

1 活動報告

(1) 委員会の開催 年2回

ア 第1回 (R2.10.29)

- (ア) 令和元年度地区生活支援員活動報告
- (イ) 通いの場および生活支援サービス活動の状況

イ 第2回 (R3.2.15)

- (ア) 令和2年度事業の経過報告について
- (イ) 令和3年度事業方針案について

2 事業報告

(1) 通いの場の整備状況

種類	内容	新型コロナの影響について
福祉ひろば 事業 (36館)	各福祉ひろばで開催 ふれあい健康教室、イベント などを開催	警戒レベルなどに応じ、感染拡大 期には事業を中止するなどしたが、 感染への警戒が必要な時期には、感 染予防対策を徹底して事業を実施
町会サロン	町会単位で開催	開催回数は減ったが、今年度は 219町会が申請
いきいき 百歳体操	希望があった所から少人数 単位で開催。町会単位で開催し ているところが多い。	現在32か所で活動を行う。令和 2年度新規は15か所。コロナで中 止するも、様子を見ながら再開

(2) 生活支援サービスの整備状況 (互助及びボランティアによるもの)

生活支援サービス名称	実施主体	活動形態
中央地区福祉互助会	中央地区 (地区生活支援員)	住民互助
*松原サポート	地区住民 (地区生活支援員)	//
蟻北レスキュー(城北)	町会有志	//
こだま (松南)	町会有志	//
*お助け隊島立	地区住民 (福祉ひろば)	//
もずみ商店 (庄内)	有志	契約による
ふらっと (庄内)	NPO	//
ぽっかぽか (波田)	NPO	//
JA 夢あわせの会	JA 松本ハイランド	会員制
ワーカーズコープかがやき	長野県高齢者生協	//
つむぎちゃんサポート	社会福祉協議会	//
四賀かわり隊	社協四賀地区センター	//

*印は今年度新規立ち上げ

(3) 地区生活支援員の活動報告

(4) 人材育成講座について

ア 高齢者サポータースキルアップ研修

日時：11月28日（土）午後1時30分から3時30分

場所：浅間温泉文化センター 大会議室

内容：講演「認知症の方が地域で暮らし続けるためにできること」

講師：大桑村社会福祉協議会 認知症コーディネーター 松谷 学氏

出席者：21名

イ 社協有償生活支援事業「つむぎちゃんサポート」人材育成

(ア) 協力会員登録時説明会 8月26日（水）参加5名（うち登録5名）

12月10日（木）参加6名（うち登録6名）

(イ) 協力会員スキルアップ研修会 9月16日（水）24名

9月17日（木）21名

11月13日（金）27名

11月19日（木）18名

ウ 地区単位の講座

(ア) 里山辺地区 6月29日（火）地区生活支援員の役割 参加11名

8月24日（火）松原サポートの取り組みについて 参加15名

(イ) 松原地区 傾聴について ➡中止

3 令和3年度生活支援体制整備事業に関する事業方針について

(1) 地区生活支援員配置について

年度	地区	合計
元	第二、中央、寿台、里山辺、四賀、梓川、波田	7
2	城北、白板、庄内、松南、和田、笹賀、寿、本郷、松原	9
3	第三、島内、中山、島立、芳川、岡田、今井、内田	8
4	第一、東部、安原、城東、田川、鎌田、新村、神林、入山辺、安曇、奈川	11

令和4年度の配置を進めるとともに、既に配置になった職員の研修を進め、また、職員のスキルアップのため、地域包括支援センターと地区生活支援員の事例検討会等も行う予定。

(2) 通いの場・生活支援サービスの拡充について

地区生活支援員と地域包括支援センターは互いに協力しながら、住民同士の助け合いを支援し、民間やNPO等との協働も視野に活動を広げる。

また通いの場は町会に1か所（月1回）を目指し、生活支援サービスについては地域の活動を中心に、また社会福祉協議会の有償サービス「つむぎちゃんサポート」も並行して拡充する。

既に、これらの取り組みがある地区は、活動を維持していくための人材育成や通いの場等へつながりにくい住民へのアプローチも行う。

認知症施策推進協議会報告

1 活動報告

(1) 協議会 年3回

ア 第1回 (R2. 7. 16)

- (ア) 令和元年度事業について(報告)
- (イ) 令和2年度事業進捗状況について(報告)
- (ウ) 若年性認知症支援広域ネットワーク会議開催について(報告)
- (エ) 高齢者等実態調査の結果を踏まえた第8期介護保険事業計画等の作成に向けた認知症施策について(協議)
- (オ) 城西病院認知症疾患医療センター2019年度実績報告(情報提供)

イ 第2回 (R2. 11. 5)

- (ア) 若年性認知症支援広域ネットワーク会議開催について(報告)
- (イ) 第8期介護保険事業計画等の策定に向けた認知症施策について(協議)

ウ 第3回 (R3. 2. 19)

- (ア) 令和2年度認知症思いやりサポートチーム(認知症初期集中支援チーム)進捗状況について(報告)
- (イ) 令和2年度まつもとミーティング(本人ミーティング)開催支援について(報告)
- (ウ) 令和2年度オレンジ研修会(認知症研修会)、キャラバン・メイト交流会活動について(報告)
- (エ) 第8期介護保険事業計画等(認知症施策)について(報告)
- (オ) 令和3年度松本市認知症事業計画について(協議)

(2) 事業進捗状況報告〈R2. 12月末現在〉

ア 認知症思いやりサポートチーム(初期集中支援チーム)

- (ア) チーム員会議開催回数 8回
(毎月1回実施、4月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)
- (イ) 対応件数
 - a 支援対象者数12人(令和元年度より継続2人、令和2年度新規10人)
 - b 令和2年度支援終了者件数7人(5人支援継続中)
- (ウ) 支援終了者(7人)の状況
 - a チーム介入時、専門医未受診者は6人でしたが、3人が受診につながりました。専門医以外も含めると全員が医療機関へつながりました。
 - b チーム介入時、7人全員が介護保険サービス未利用でしたが、5人がサービス利用となりました。
 - c 支援の結果、6人が在宅生活の継続となりました。

イ まつもとミーティング（本人ミーティング）開催支援について

(ア) 趣旨

認知症施策推進大綱にある「普及啓発・本人発信支援」及び「若年性認知症の方への支援」として、認知症の方の声を大切に、本人同士が主体となり、自らの体験や希望等を安心して語り合える場である「本人ミーティング」の開催支援に向け、県若年性認知症支援コーディネーターと連携した事業の推進。

(イ) 経過

開催日	実施内容	参加者
R 2. 8. 1 8	【講演会】 テーマ「どのように本人ミーティングが始まったか」 講師：長野県若年性認知症支援コーディネーター 伝田景光氏 (ケアマネ勉強会共催)	ケアマネ、市の関係者等 85人
R 2. 1 0. 1 5	【若年性認知症広域ネットワーク会議 (WEB 講演会・意見交換会)】 講師：オレンジドア代表 丹野智文氏(仙台市) Borderless with dementia メンバー 鬼頭史樹氏(名古屋市) (県共催)	本人4人、家族5人 支援者15人、県・市関係者16人
R 2. 1 1. 2 1	【本人ミーティング準備会】 名称は「まつもとミーティング」、月1回定期開催と決定	本人2人、家族2人 支援者3人、県・市関係者6人
R 2. 1 1. 2 8	【高齢者サポータースキルアップ研修】 講師：大桑村社会福祉協議会 認知症コーディネーター 松谷学氏	市関係者49人
R 2. 1 2. 1 3	【第1回まつもとミーティング】 Zoom 併用開催 長野市の本人ミーティング参加者との交流、	本人4人、家族3人 支援者3人、県・市関係者6人
R 3. 2. 2 7 R 3. 3. 1 4	1月は新型コロナウイルス特別警戒警報Ⅱの発令により中止、2月・3月は実施	
【認知症地域支援推進員連絡会 (月1回開催)】 地域で関わりのある若年性認知症の方の情報共有と、「本人の声を起点とした認知症地域支援体制ガイド」、厚労省 HP 掲載認知症の人からのメッセージ動画研修等で学びを深めた。		

ウ オレンジ研修会(認知症研修会)、キャラバン・メイト交流会活動報告について

(ア) 目的

地域住民及び専門職が認知症の方や介護者を支援するネットワーク推進のため、知識や対応スキルを習得する。

(イ) 実施内容 (一部抜粋)

地域包括名	開催日	実施内容	講師
河西部西	7月1日	【キャラバン・メイトとの意見交換会】	地域包括支援センター職員
中央西 河西部	7月16日	【講演会】	訪問看護ステーションデューン松本： 所長 楠氏
中央北	8月19日	【キャラバン・メイトとの意見交換会】	地域包括支援センター職員
河西部西 西部	9月1日	【講演会】	丸の内病院：認知症看護認定看護師 上嶋氏
西部	9月23日	【講演会】	オレンジカフェ花水木：代表 妹尾氏
中央	9月28日	【ワーク】	地域包括支援センター職員
北部	9月29日	【ワーク】	地域包括支援センター職員

東部 中央南 南東部	9月29日	【講演会】	丸の内病院：精神科 武藤医師、認知症看護認定看護師 上嶋氏
南部 南西部	11月27日	【講演会】	訪問看護ステーションデューン松本： 所長 楠氏

2 令和3年度事業計画

(1) 普及啓発・本人発信支援

認知症サポーター養成講座の開催、認知症サポーターの活動促進、認知症に関する相談窓口の周知、認知症地域支援推進員を中心に、各地区で認知症ケアパスを活用しての積極的な普及啓発、世界アルツハイマーデー及び月間における図書館等との連携による普及啓発。

(2) 予防

認知症ケアパス（認知症チェックリスト）を活用し、早期対応等に関する普及啓発、地域にある身近な通える場「通いの場」を周知と予防、セルフケアに関する啓発。

(3) 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

認知症サポート医の助言を受けながら、初期集中支援チームによる、早期診断や早期対応に向けた支援。

認知症思いやり相談の開催、物忘れ相談会を実施し、認知症ケアパスを活用しての相談や、状況に応じて専門相談等につなげられるよう、医療機関等との連携強化の推進。認知症カフェの開設、運営支援。

(4) 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援

認知症の人の支援ニーズに認知症サポーター等をつなげる仕組み「チームオレンジ」の設置に向けての検討。

徘徊高齢者家族支援サービス事業、思いやりあんしんカルテの登録勧奨、行方不明になった場合に備えて、GPS（所在地確認）の貸与について周知、その他のツールの活用の検討。地域での見守り体制づくり、ネットワークづくり。

成年後見制度の中核となる機関を設置し、制度利用の促進を図ります。

消費者被害防止施策、虐待防止施策の推進。

地域ケア会議のあり方について

1 趣旨

地域包括ケアシステムの推進に向け、各地区で地域包括支援センター、地域づくりセンターが中心となり、地域ケア会議、個別地域ケア会議を開催し、地域課題や個別課題の検討に取り組んでいます。地域共生社会への進展などに伴い、地域ケア会議のあり方について、今後検討を進めるものです。

2 経過

- 24～25 試行的に地域ケア会議を開催
 26 地域ケア会議ガイドラインを作成
 26.5 松本市地域包括ケア協議会を設立
 27.8 松本市地域包括ケア庁内推進会議を設置
 30.4 地域包括ケアシステムに係る「平成31年度までの稼働三要件（※）」

を提示

※稼働三要件 ① 月1回程度の地区支援企画会議の定期開催
 (概要) ② 医療、介護関係者を交え、地区レベルの地域ケア会議を年1回以上開催
 ③ JAGESやKDBの結果等から課題の把握とその解決に向けた動きが始まっている

- 2～ 地域ケア会議のあり方について、関係課で検討を開始

3 実績

内容 年度	地域ケア会議					地域包括ケア 庁内推進会議		地域包括ケア協議会		備考
	地域		個別		自立支援 型個別	推進会議	幹事会	全体会	小委員会	
	地区数	開催数	地区数	開催数						
24年度	20地区	24回	—	—	—	—	—	—	—	地域ケア会議 試行実施
25年度	28地区	32回	—	—	—	—	—	—	—	
26年度	21地区	26回	8地区	10回	—	—	—	2回	2回	
27年度	31地区	36回	11地区	12回	—	1回	1回	2回	3回	
28年度	26地区	27回	18地区	21回	—	0回	3回	2回	2回	
29年度	33地区	55回	14地区	19回	—	0回	2回	3回	2回	
30年度	34地区	76回	19地区	41回	—	2回	2回	2回	6回	
元年度	30地区	38回	16地区	33回	12件	0回	2回	2回	4回	自立支援型試行 実施
2年度	16地区	21回	19地区	35回	20件	0回	1回	1回	3回	R3.2末現在

※24、25年度の地域ケア会議は「地域」「個別」の区別がないため、「地域」へ統一

4 現状と課題

- (1) 35地区で稼働三要件を満たし、地域の様々な取組みが始まったことにより、地域と専門職の連携が進んできている。
 (2) 地域全体で開催する地域ケア会議では、高齢者に関する課題だけではなく、多世代、多分野に関わる地域課題を検討できる場として体制を整える必要がある。
 (3) 地域ケア会議の結果から、地区だけでは解決できない市レベルの課題を整理し、抽出する方法に課題が生じている。

5 令和3年度地域ケア会議（地区レベル）の進め方

- (1) 稼働三要件に捉われず、地区の実情で現在行われている緩やかな協議体等も活用し、地域課題を深める。
- (2) 医療・介護関係者への出席依頼は、必要に応じて行う。
- (3) 地域ケア会議、個別地域ケア会議で出された地域課題については、関係者間で共有し、整理する。

6 今後の進め方

- (1) 地域ケア会議等、地域課題を協議する場のあり方を検討します。
- (2) 検討結果を地域包括ケア庁内推進会議等の関係会議で協議し、方向性を決定します。